

株主のみなさまへ

2000年度

事業報告書

2000年4月1日から

2001年3月31日まで



株式会社「ハーモニック・ドライブ・システムズ」

ごあいさつ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社は、お陰さまで、2000年10月に創立30周年を迎えることができました。これもみなさまのご支援の賜と厚く感謝申し上げます。

さて、当社の2000年度（2000年4月1日から2001年3月31日まで）の決算を行いましたので、ご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、ゆるやかに回復に向かうものと期待されましたが、雇用情勢に改善が見られず、個人消費は依然として低迷し、物価の下落がデフレ懸念の増大にまで昂じる中、米国経済の急速な後退の影響もあって、景気は再び停滞感を深めました。

このような全般的状況に対して、当業界は、世界的なIT産業の拡大による半導体、液晶関連の設備投資の増大に伴い、主要な需要先である国内の半導体・液晶製造装置メーカー（一部の産業用ロボットメーカーを含む。）及びその関連機器メーカー向けの需要が旺盛で、好調な事業環境でありましたが、期の後半においてはパーソナルコンピュータ、携帯電話などIT・通信機器製品市場の成長鈍化とともに、当業界の受注環境も後退を余儀なくされました。

輸出につきましては、欧州向けは工作機械などへの根強い需要に支えられ、ユーロ安による厳しい輸出環境を補い、全般的に堅調に推移しました。また米国向けは、主要な需要先である半導体製造装置関連業界からの活発な需要がほぼ期を通じて継続いたしました。

このような状況の中で、当社は、ますます厳しくなる顧客要求に対し、最大の満足と信頼を得られるよう全社をあげて取り組み、受注の確保に努めました。

この結果、受注高は136億47百万円（前期比37.0%増）、売上高は135億65百万円（前期比41.1%増）となり、ともに過去最高を記録することが出来ました。輸出売上高は25億16百万円（前期比39.8%増）で売上高輸出比率は18.6%でありませ

ず。損益面につきましては、売上高の大幅な増加により、経常利益31億79百万円（前期比125.0%増）となりました。税引前当期利益は30億59百万円（前期比133.9%増）となり、当

期利益は17億51百万円（前期比137.3%増）となりました。

なお、連結決算ベースでは、連結当期売上高は140億6百万円（前期比42.5%増）、連結当期純利益は18億62百万円（前期比138.9%増）であります。

今後の経済見通しにつきましては、極めて厳しい状況が予想されます。特に、当社の受注・売上に大きく影響する半導体関連産業も、当面は低調な状況が続くものと予測されます。

当社は、かねてより全社的な業務改革及び一層の経営合理化のため、2001年7月1日よりの実用稼働を目指して、生産システムを核とした経営情報管理システムの再構築に取り組んでまいりました。これにより、受注から生産、出荷までの効率化を図り、納期の短縮、在庫の削減、コストの低減に努めてまいります。

また、当社は開発型メーカーとして顧客に密着し、顧客要求にあった製品開発に一層努力するとともに、超精密加工技術の開発など将来を見据えた研究にも力を注ぎ、30年の歴史を礎にさらなる飛躍を目指す所存であります。

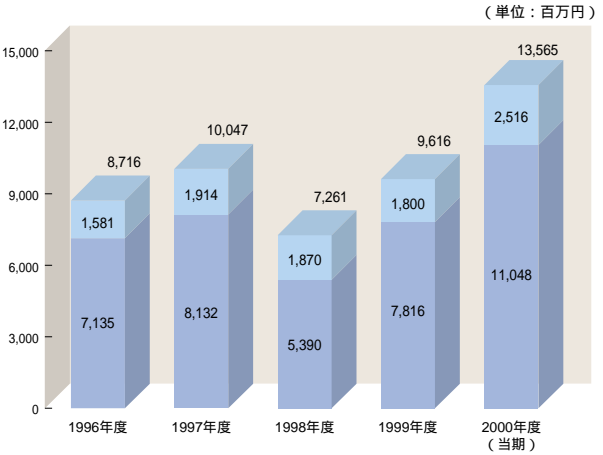
株主のみなさまにおかれましては、今後とも倍旧のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2001年6月

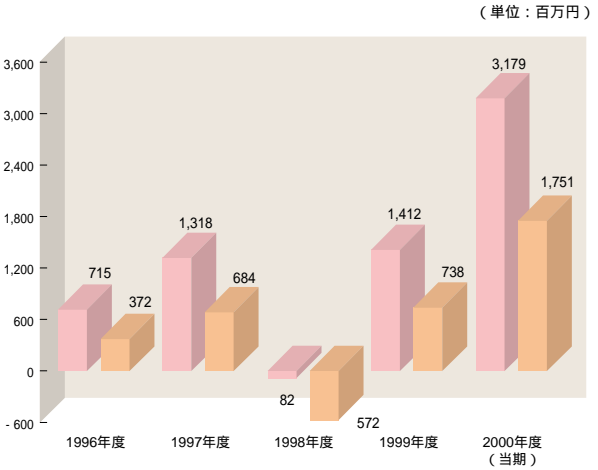
代表取締役社長 伊藤 光昌

業績の推移

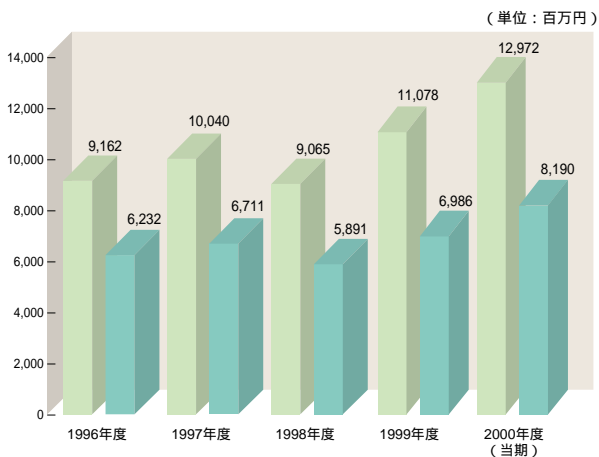
売上高 (■ 輸出 ■ 国内)



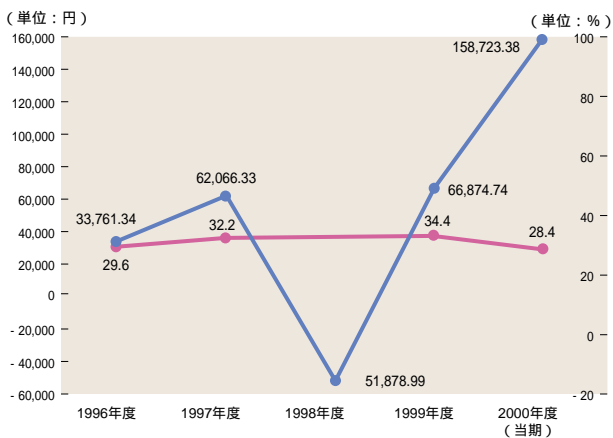
■ 経常利益 ■ 当期利益



■ 総資産 ■ 純資産



— 1株当たり当期利益 — 配当性向

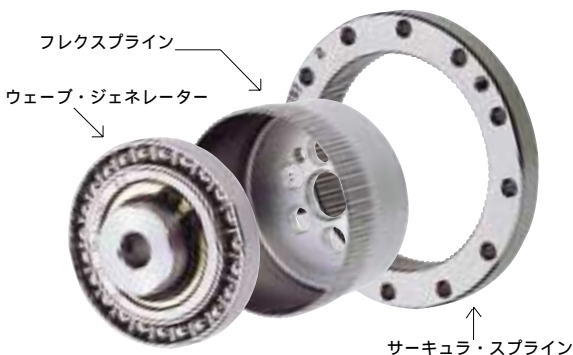


(注) 1998年度は当期損失につき、配当性向は表示しておりません。

ハーモニックドライブとは

技術の新紀元へ

（ 弾性力学を応用した画期的な発
明に接し、その可能性を確信。 ）



ハーモニックドライブはユニークな原理の歯車です。従来の歯車と異なり金属のたわみ、弾性力学を応用したもので、米国のマッサー氏によって生み出されたものです。

氏は、専門の機械工学の分野を超え、物理・化学・生物など広範囲にわたり数多くの特許を所有する天才発明家です。ハーモニックドライブのアイデアは氏が学会で他の研究者と「テコの原理」について討論している際に、突如ひらめいたものといわれます。

この革命的な発明との出会いから、当社は、より高精度、高トルクかつコンパクトなハーモニックドライブを求めて技術的な研究を重ねてきました。下図はコンパクト化への歩みであります。この蓄積した技術をもとにモーションコントロールの可能性をさらに追求してゆきます。



～ 1991年

1992年～

次世代

主要製品

減速装置

ハーモニックドライブ

わずか3点の基本部品から構成されているハーモニックドライブは、金属の弾性体（たわみ）を歯車に応用した機構により、精密な位置決めが可能な減速機です。お客様のニーズに対応した多種多様なハーモニックドライブを製造しております。



CSFシリーズユニットタイプ / CSFシリーズコンポネントタイプ

アキュドライブ

ハーモニックドライブの精密加工技術の蓄積を低減速比の分野に活かすことにより生まれた、高精度・高剛性の遊星歯車減速機です。独自の機構を備え、高い回転精度の減速機として使用されております。



HPシリーズ



HPGシリーズ

メカトロニクス製品

DC / ACサーボシステム

ハーモニックドライブと各種サーボモータとセンサーを最適に結合させた、高トルクアクチュエータです。専用のコントロールユニットとの組合せで、精密な位置決めを実現しております。



FHAシリーズ



HAシリーズ

用途

ロボット



LCD検査装置



医療機器



電子顕微鏡



三次元測定器



宇宙開発



工作機械 / 木工機械



半導体製造機器



トピックス

石油掘削装置への応用

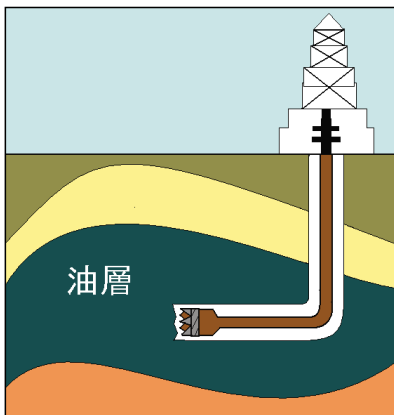
石油掘削装置へ当社製品が使われております。

現在石油掘削の世界では、水平坑井という垂直に掘られた坑井を水平に曲げ、地下に埋蔵する石油を効率よく掘り当てる技術が求められています。これを可能にするためには地下の掘削機の姿勢を制御する機構が必要となります。

当社では、掘削方向を自由に変えられる、ハーモニックドライブを利用した掘削機姿勢制御アクチュエータを住友金属工業株式会社殿、石油公団殿、米国の石油掘削サービス会社等と共同開発し、実用化にいたしました。

掘削装置という従来にない用途への応用はハーモニックドライブの世界をさらに広げる事となることが期待されます。

水平坑井概念図



掘削機曲げ機構部



トピックス

超精密加工技術開発のための研究棟建設

精密減速機の世界ではさらに精度の高いものが求められつつあります。

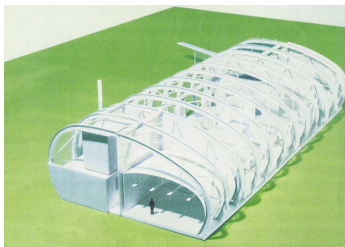
これに応えるためには、従来のものを超えた加工技術と技能が必要となり、また超精密度を測る測定技術が必要です。

当社ではこの分野の研究開発を行うため、このほど穂高工場敷地内に新たに研究棟を建設することにいたしました。

具体的には、減速機における角度伝達誤差において、現在の当社製品の持つ精度を10倍程度引き上げることを目標とするものです。

超精密加工を行うには、優れた耐震性を備え、厳しい温度と湿度管理が可能な工場が必要となります。研究棟はこのような条件を満たす仕様となっており、次世代製品のための実験工場となるものです。

研究棟イメージ図



図は「横総合計画事務所」提供

人とのハーモニー



当社の「ハーモニックコンサート」は2000年度で第18回目を迎え、例年どおり長野県豊科町公民館において「創立30周年記念ハーモニックコンサート」を開催し、白井光子、クリストフ・ブレガルディエン、ハルトムート・ヘルによる「フーゴ・ヴォルフ：ハイゼの詩によるイタリア歌曲集」が演奏され、会場満員の聴衆を魅了しました。

また、「ハーモニック講演会」も回を重ねて第5回目となり、今回は「創立30周年記念講演会」として、芥川賞受賞作家の宮本輝氏をお招きし、松本市のホテルを会場に、「シルクロード6700キロの旅」をテーマにユーモア溢れる講演をいただきました。

なお、例年のとおり収益金は小・中学校の図書購入費として、豊科町、穂高町に寄贈しました。

ハーモニックコンサート（最近分）

- 第10回 創立20周年記念ハーモニックコンサート
白井光子（メゾソプラノ）、ハルトムート・ヘル（ピアノ）
タベア・ツィーママン（ヴィオラ）
エドゥアルト・ブルナー（クラリネット）
- 第11回 吉江忠男（バリトン）、峯村操（ピアノ）コンサート
- 第12回 藤村佑子ピアノリサイタル
- 第13回 白井光子（メゾソプラノ）、ハルトムート・ヘル（ピアノ）
デュオコンサート
- 第14回 大野総一郎（ホルン）、徳永二男（ヴァイオリン）、
伊藤恵（ピアノ）コンサート
- 第15回 漆原啓子（ヴァイオリン）、菅原博文（チェロ）、
辛島輝治（ピアノ）コンサート
- 第16回 徳永二男（ヴァイオリン）、練木繁夫（ピアノ）
コンサート
- 第17回 藤村佑子ピアノリサイタル
- 第18回 創立30周年記念コンサート
白井光子（メゾソプラノ）、クリストフ・ブレガルディエン（テノール）
ハルトムート・ヘル（ピアノ）

ハーモニック講演会

- 第1回 宮本 輝（芥川賞受賞作家）
- 第2回 西澤潤一（岩手県立大学学長、前東北大学総長）
- 第3回 横 文彦（建築家）
- 第4回 小平桂一（国立天文台台長）
- 第5回 宮本 輝（芥川賞受賞作家）
（敬称略）

貸借対照表 (2001年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	8,410,659	流 動 負 債	4,150,078
現 金 預 金	1,255,001	支 払 手 形	1,520,708
受 取 手 形	1,373,988	買 掛 金	387,960
売 掛 金	4,267,134	一年以内返済長期借入金	216,420
有 価 証 券	292,020	未 払 金	232,010
自 己 株 式	2,260	未 払 費 用	137,461
製 品	60,598	未 払 法 人 税 等	1,254,616
原 材 料	425,096	未 払 消 費 税 等	91,366
仕 掛 品	361,664	前 受 金	4,181
貯 蔵 品	40,707	賞 与 引 当 金	258,386
前 払 費 用	132,053	そ の 他	46,966
繰 延 税 金 資 産	199,460	固 定 負 債	632,090
そ の 他	5,603	長 期 借 入 金	343,970
貸 倒 引 当 金	4,929	長 期 前 受 収 益	20,000
固 定 資 産	4,562,179	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	268,120
有 形 固 定 資 産	2,667,645	負 債 合 計	4,782,168
建 物	1,125,388	資 本 の 部	
構 築 物	81,836	資 本 金	666,800
機 械 及 び 装 置	159,808	資 本 金	666,800
車 輛 運 搬 具	708	法 定 準 備 金	3,425,474
工 具 器 具 備 品	479,202	資 本 準 備 金	3,264,200
土 地	803,912	利 益 準 備 金	161,274
建 設 仮 勘 定	16,788	剰 余 金	4,136,548
無 形 固 定 資 産	296,836	任 意 積 立 金	2,000,000
ソ フ ト ウ ェ ア	288,985	別 途 積 立 金	2,000,000
電 話 加 入 権	7,386	当 期 未 処 分 利 益	2,136,548
水 道 施 設 利 用 権	464	(当 期 利 益)	(1,751,671)
投 資 等	1,597,697	評 価 差 額 金	38,153
投 資 有 価 証 券	1,071,085	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	38,153
子 会 社 株 式	73,237	資 本 合 計	8,190,669
出 資 金	195,352	負 債 及 び 資 本 合 計	12,972,838
長 期 貸 付 金	1,710		
敷 金 ・ 保 証 金	76,158		
長 期 繰 延 税 金 資 産	150,640		
そ の 他	29,514		
資 産 合 計	12,972,838		

- (注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
 2. 有形固定資産減価償却累計額 2,768,645千円
 3. 保 証 債 務 270,000千円

損益計算書 (自 2000年4月1日 至 2001年3月31日)

(単位：千円)

科 目		金	額	
經常損益の部	営業収益		13,565,389	
	売上高	13,565,389		
	営業費用		10,402,105	
	売上原価	7,645,934		
	販売費及び一般管理費	2,756,170		
	営業利益		3,163,284	
	営業外損益の部	営業外収益		67,034
		受取利息	9,909	
		受取配当金	3,823	
		不動産賃貸収入	36,600	
その他収益		16,701		
営業外費用			50,994	
支払利息及び割引料		23,455		
不動産賃貸費用 その他費用		18,165 9,373		
經常利益		3,179,324		
特別損益の部	特別利益		16,512	
	貸倒引当金戻入益	16,512		
	特別損失		135,867	
	固定資産除却損	6,961		
	固定資産売却損	3,702		
	ゴルフ会員権評価損 退職給付会計基準変更時差異費用処理額	10,552 114,651		
税引前当期利益		3,059,969		
法人税、住民税及び事業税		1,401,319		
法人税等調整額		93,021		
当期利益		1,751,671		
前期繰越利益		627,651		
中間配当額		220,704		
中間配当に伴う利益準備金積立額		22,070		
当期末処分利益		2,136,548		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位：円)

科 目	金 額
当期末処分利益	2,136,548,739
これを次のとおり処分いたします。	
利益準備金	5,425,600
利益配当金	275,880,000
(1株につき25,000円)	
取締役賞与金	150,000,000
監査役賞与金	10,000,000
任意積立金	
別途積立金	
合計	500,000,000
次期繰越利益	941,305,600
	1,195,243,139

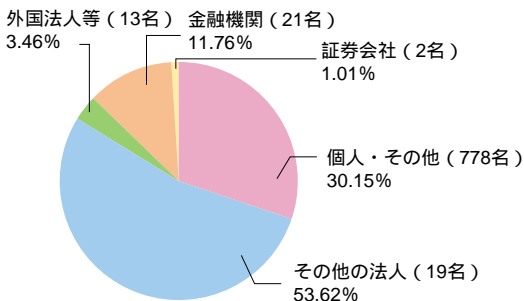
(注) 2000年12月15日に220,704,000円(1株につき20,000円)の中間配当を実施いたしました。

株式の状況 (2001年3月31日現在)

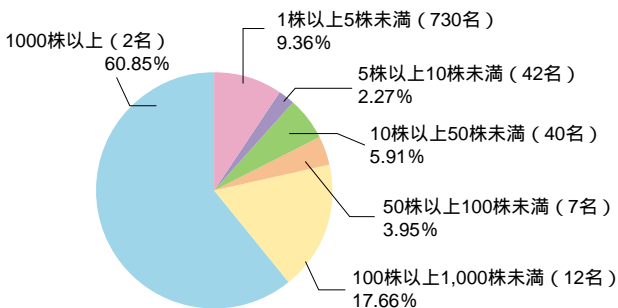
会社が発行する株式の総数 44,000株
 発行済株式の総数 11,036株
 株主数 833名

株式の分布状況

(1) 株式所有者別分布状況



(2) 所有株数別分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社光電製作所	5,590	50.65%
伊藤光昌	1,126	10.20%
東洋信託銀行株式会社(信託勘定A口)	542	4.91%
帝人製機株式会社	209	1.89%
所敦夫	139	1.25%
トリカウスインターナショナルクセンプルグ	134	1.21%
所洋介	125	1.13%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	122	1.10%
伊藤良昌	120	1.08%
株式会社三和銀行	120	1.08%

株主メモ

決算期 定時株主総会 利益配当金	毎年3月31日 毎年6月に開催いたします。 決算期現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載の株主並びに端株原簿に記載の端株主にお支払いいたします。
中間配当金	中間配当を実施するときは9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載の株主並びに端株原簿に記載の端株主にお支払いいたします。
基準日	3月31日 そのほか必要あるときは、取締役会の決議により、あらかじめ公告して、基準日を定めます。
株式名義書換 (1)名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 みずほ信託銀行株式会社
(2)同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) (電話お問合せ)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(3)同取次所	電話 03(3642)4004(大代表) みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 安田信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

証券「ハーモニックドライブ・システムズ」

〒140-0013 東京都品川区南大井六丁目25番3号

TEL 03-5471-7800

ホームページ・アドレス <http://www.hds.co.jp/>